

1. 教材名：「手品師」

内容項目：主として自分自身に関すること—正直、誠実（光村図書 小学校6年 P99、東京書籍 同6年 P102、教育出版6年 P30、光文図書5年 P168、学校図書5年 P78、学研みらい5年 P76、日本文教出版6年 P90、廣済堂あかつき6年 P28）

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

(1) 内容項目に焦点化しない

①今日は『誠実』について学習しよう。」とはやらない。

道徳の授業では、その時間に取り扱う内容項目が決まっており、そこに焦点化することが求められる。導入時に「今日は『誠実』について学習するよ。誠実って何だろう」といった展開で行われる授業も増えているようだ。研修に行くと、そうしたモデルが示されることもある。しかしながら、そうした授業展開は、焦点化できる一方で、教師が考えるところの“良い価値”へと子どもの思考を誘導してしまうという側面もある。できればそういう展開はしたくない、と考えている。

②「誠実」について、教科書編集者の意図を超えた解釈の幅をもたせたい。

今回使用するのは、「自分の夢実現のチャンスをよりも、男の子との約束を守ること」を選んだ手品師の行為が「誠実」である、という価値観で書かれた物語を、その意図通りに教科書編集者が掲載している、「手品師」という資料である。しかしながら、本当に自分の夢を投げ出してまで約束を守ることが誠実な行為なのか、というと、私には疑問がわく。「自分の思いは我慢して相手との約束を優先することこそが『誠実』という教師の意図を付度し、自分が本当に思っていないのにもかかわらず「手品師は立派だ。自分もそんな人間になりたい」などと、子どもたちには表現させたくはないのだ。真剣に「誠実とは何か」を考えたい結果として、「ぼくなら夢を選ぶ。そして、なんとかして後日少年に謝る。それこそが誠実な態度ではないか」と考えるなら、それもすばらしいと認められるような授業にしたい。教師の考える「誠実」という価値を押し付けるのではなく、「誠実」とは何かについて共に考えていく時間を志向して…。

(3) 授業参観者の感想

参観者からは、以下のような感想をいただきました。

「価値項目を先に示さないというのもありだと思った」「意見が活発で中身の濃い授業だった」「どの子の意見も共感し、認めている姿が良かった」「『誠実』というテーマが難しかった。正解はない、互いの考えを尊重する、ということへつなげていたことはよかった」

「道徳の時間に学習したことが普段の生活でどのように生きてくるのだろうか」「どうまとめるか、最後どう終わるかが難しいと思った」

(4) 授業を終えて

教材の意図に反して、「約束」か「大劇場出演」かの二者択一ではない選択肢を、一生懸命に考える子どもがいた。そういう子どもたちを育てる機会として道徳の時間を上手に使っていきたいと思う。「道徳教育」検討小委員会では、「分断読み（場面ごとに発問）」「中断読み（最後まで読まない）」などの方法が例示された。自分が子どもだったら、最後まで読ませてもらいたいと思うので、また勉強していきたい。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問など	留意点
導入	<p>◎「手品師」を読み、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手品師は優しい。・チャンスを逃し、もったいない。 <p>◎場面の状況を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな手品師か。 ・どんな男の子か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読 ・感想をペアと全体で交流する。 ・基本的な場面の状況について発問・挙手発言で確認。
展開	<p>◎あなたなら、大劇場出演と男の子との約束、どちらを選ぶか。</p> <p>○大劇場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢・努力してきた・くらしが楽になる・大勢のお客さんを楽しませたい・男の子には何らかの形で連絡する <p>○男の子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先に約束したから・悲しませたくない・男の子には自分しかいない・次のチャンスを待てばいい・後ろめたい気持ちのままステージに立てない <p>◎手品師は男の子との約束を選んだ。なぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○約束より自分の都合を優先するような自分はいやだ。 ○たった一人のお客様も喜ばせないのは手品師として失格だ。 <p>◎男の子に手品を披露している時、どんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○約束を守ってよかった。 ○喜んでもらえてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで交流 ・ネームカードで意思表示。 ・「どちらとも言えない」という気持ちも認める。 ・ワークシートに書く。 ・全体で交流 <p>○補助発問</p> <p>「手品師は、男の子の気持ちだけを考えて決断したのか。決断する時に大切にされたことは何だろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後悔していない手品師の心情をとらえる。
まとめ	<p>◎手品師の生き方と自分の生き方を比べて、「誠実」ということについて考えたことを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手品師は、約束を大切に考え、誠実であろうとしていた。 ○自分は大劇場を選ぶが、後悔しないようよく考え決断したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他に対して誠実であるために、という観点で書くよう促す。ワークシートに書き、全体で交流。

4. 参考資料